

宗青圖書公司印行

宋高僧傳索引上

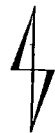
漢學索引集成  
蔣致遠主編

牧田諦亮・藤善眞澄編

# 宋高僧傳索引 上

---

中國高僧傳索引 ※ 第5卷



平樂寺書店

## 宋高僧傳索引上

牧田諦亮編  
藤善眞澄

---

中華民國75年5月初版

出版者：宗青圖書出版公司

發行人：蔣致遠

發行處：宗青圖書出版公司

台北郵政22034號信箱

電話：(02)941-4553

郵政劃撥第0119411-8號

局版臺業字第1825號

---

精裝1冊

定價新台幣700元

## 序

(宋高僧上)

中國高僧傳索引第五卷的「宋高僧傳索引」上卷，是著名佛教史家宋代律僧贊寧（919～1002）撰述的宋高僧傳三十卷的人名、僧名、寺名索引。

宋高僧傳是贊寧於太平興國七年（980）奉勅命，在杭州花了七年時光編纂而成，在時間上是接續於唐西明寺道宣的唐高僧傳之後，全書一共三十卷，包括正傳533人、附見130人，分爲譯經、義解、習禪、明律、護法、感通、遺身、讀誦、興福、雜科聲德十科。此書雖是承續於唐高僧傳之後，但也收錄了若干唐之前高僧的傳記，如道宣曾經提及的北魏西涼檀特師（18卷），書中亦有收錄。但是，譯經篇是由義淨傳開始，一直到宋代初期，也就是與贊寧同時代而活躍於中國佛教界的螺溪義入寂（919～987）爲止，網羅了在上呈高僧傳的端拱元年（988）前一年入寂的所有僧侶。

因爲撰者贊寧大半生涯都於江南吳越一帶度過，所以收錄於僧傳中的高僧傳記資料，有偏重於華中、華南地區的傾向。對於佔唐代佛教史重要地位的長安、洛陽佛教界高僧的事蹟，雖然已經盡了相當努力，但不知是有意或無意，竟然遺漏了禪家的資料，而作爲傳文直接資料的碑記類之收集，由現代金石學的立場看來，仍有相當數量的闕漏。雖然如此，它仍不失爲中國佛教最高揚時期——唐代佛教史的中心史料，而宋高僧傳史料的重要性，在於它是唐、五代、宋初中國佛教史諸關係史料的第一手資料。

本索引徹底利用了身爲重要資料的宋高僧傳，可說是欲廣泛、深入而正確地了解中國佛教史，所必備的工具。編纂時，是以利用已出版的索引專研唐代佛教史的藤善爲中心，並獲諏訪義純副教授的援助，花了數年歲月製作

而成的。

在編輯方式上，是將僧名、人名、寺名的索引列爲本卷，地名、書名索引列於第六卷（1976年），件名索引列於第七卷（1977年，與滋賀高義編的大明高僧傳索引合冊）。接續已經完成的梁高僧傳、唐高僧傳索引的本索引，雖然不能說是完美無暇的，但相信在中國佛教史的研究上，應該具有相當重要的貢獻。

本卷因獲1975年度文部省科學研究費（研究成果出版費）的資助，方得以出版，特在此表示謝意。

同時，本卷之得以順利完成，得歸功於負責各種事務的冷泉實實子、細心注意編輯、校正工作的平樂寺書店老闆井上四郎先生，及負責以舊活字作困難印刷的文功社各位員工的努力，於此特申最高謝意。

1976年2月1日

牧田諦亮

藤善眞澄

## 凡 例

1. 中國高僧傳索引第五卷的宋高僧傳索引(上)，是贊寧撰宋高僧傳三十卷中的僧名、人名、寺名索引。
2. 使用的底本爲大正大藏經第五十卷所收的明版宋高僧傳。
3. 本索引是以五十音順表音式排列，同音時按照筆劃的多少排列。僧名、寺名有特殊讀法時，仍採用慣用音。爲了部分使用者的方便，各篇篇首附有檢字表。
4. 本索引中的略號如下：
  - A. 引用文前面的①、②，是表示宋高僧傳第一卷、第二卷。
  - B. 引用文末尾的數字(例如 710 b)，表示大正大藏經第五十卷七百一十頁中段(a爲上段，c爲下段)。
5. 僧名的異名、略名綜括列舉於本名項，異名、略名之項，則只列本名。
6. 因爲主編者的意志緣故，各卷在編纂上有若干不統一之處，希望多多包涵。
7. 使用本書時，請參考國譯一切經和漢部 80、81的牧田譯注宋高僧傳。

## 序

中國高僧傳索引第五卷としての本『宋高僧傳索引』上巻は、宋の律僧であり佛教史家として知られる贊寧(919~1002)の撰述にかゝる宋高僧傳三十巻の僧名・人名・寺名索引である。

宋高僧傳は、唐の西明寺道宣の唐高僧傳を繼紹したもので、太平興國7年(980)、贊寧は勅命を奉じて杭州で七年をついやして全三十巻、正傳533人、附見130人の傳を纂集したのである。譯經・義解・習禪・明律・護法・感通・遺身・讀誦・興福・雜科聲徳の十科の分類は、唐高僧傳のそれを承けたものである。唐高僧傳をついだものではあるが、道宣が洩らした北魏西涼檀特師(巻18)のような唐以前の高僧の傳記も若干収録されてはいる。が、譯經篇の義淨傳に始まり、宋代初期、すなわち贊寧と同時代人で中國の佛教界に活躍した螺溪義寂(919~987)のように、高僧傳上進の端拱元年(988)の前年に入寂した僧までも網羅されている。

もちろん、この僧傳に收められている高僧の傳記も、撰者贊寧が江南吳越にその生涯の大半を送つた人であるだけに、資料の蒐集も華中・華南の地域に偏重の傾向がみられる。唐代佛教史の重要な部分を占める長安・洛陽の佛教圏の高僧の記事については、相當な努力をはらつているにもかかわらず、禪家に對する意識的乃至無意識的な手落ちとか、傳文の直接の資料となつた碑記類の蒐集においても、今日の金石學の立場からは、なお相當數の闕漏を知るのである。が、中國佛教の最も高揚した時期でもある唐代佛教史の中心史料となるものであることはいうまでもなく、宋高僧傳の史料としての重要性は、唐・五代・宋初の中國佛教史關係諸史料の第一級に推されるものである。

本索引はこの重要資料としての宋高僧傳を徹底的に利用し、中國佛教史研究をさらに博く、深く、正しく理解するための必携のものとし、さきに刊行した索引に準據して、唐代佛教史研究を専攻課題とする藤善が中心となり、諏訪義純助教授の援助を得て、數年の歳月を要して作製したものである。

その編制は、僧名・人名・寺名の索引を本巻に、ついで地名・書名索引を第六卷(昭和51年度)、件名索引を第七卷(昭和52年度、滋賀高義編の大明高僧傳索引と合冊)とするものである。さきに完成した梁高僧傳や唐高僧傳の索引とともに、なお完璧とはいいがたいが、中國佛教史研究の上に、もの言わぬ重要な貢献をなし得るものと信ずる。

本巻もまた昭和50年度文部省科學研究費(研究成果刊行費)を交附されて、この出版が可能となつたことを感謝するものである。

また本巻の成るにあつて、諸般の事務を擔當した冷泉貴實子さんや編集・校正の面にまで細心の注意を及ぼされた平樂寺書店主井上四郎氏、全文舊活字使用という困難な印刷擔當の文功社社員各氏の努力に甚深の謝意を表するものである。

昭和51年2月1日

牧 田 諦 亮  
藤 善 真 澄

しるす



## 凡 例

1. 中國高僧傳索引第五卷としての宋高僧傳索引(上)は、贊寧撰の宋高僧傳三十卷の中の僧名・人名・寺名索引である。
2. 底本としては大正大藏經第五十卷所收の明版宋高僧傳を用いた。
3. 本索引は五十音順表音式により、同音のものについては字劃の多少によつた。僧名・寺名などの特殊の読み方のあるものは、おおむね慣用音に従つた。また一部利用者の便を計つて、各篇の首に檢字表を附した。
4. 本索引中の略號は下のとおりでである。
  - イ. 引用文冒頭の①、②は宋高僧傳第一卷、同第二卷である。
  - ロ. 引用文末尾の數字(たとえば710b)は大正大藏經第五十卷七百十頁中段(aは上段、cは下段)であることを示す。
5. 僧名などの異名・略名は、おおむね本名の項に綜括列擧し、異名・略名のそれぞれの項には、本名を掲げるとどめた。
6. 主編者の意志で各卷に若干の編纂上の不統一の生じたことを諒されたい。
7. 本書の利用にあたっては、國譯一切經和漢部80、81の牧田譯注宋高僧傳を参照されたい。

中國高僧傳索引 第五卷

宋高僧傳索引(上)

I	僧	名	篇	.....	1
II	人	名	篇	.....	227
III	寺	名	篇	.....	387

# I 僧 名 篇

## 檢 字 表

一 畫	7	五 畫	132	地	135	成	98
二 畫	169	代	218	多	124	戒	35
三 畫	76	令	48	好	67	投	149
三 上	98	功	199	如	169	抖	150
亡	198	北	33	存	123	李	217
大	124	可	80	守	87	杜	149
子	78	司	79	安	6	東	123
小	91	史	79	成	88	求	50
尸	79	四	79	有	214	汪	28
四 畫	177	孕	124	汎	183	沈	8
不	133	左	76	牟	205	狂	46
丹	64	巨	46	百	176	秀	88
五	89	布	179	老	224	良	219
什	108	幼	216	自	83	赤	113
仁	8	弘	49	至	80	足	123
元	54	本	200	行	46	辛	101
公	48	正	92	西	76	那	168
六	217	永	27	七 畫	86	八 畫	113
勿	74	玄	55	些	173	刹	89
天	148	生	92	伯	33	叔	88
太	124	申	101	伽	182	周	226
少	92	白	173	佛	90	和	133
心	101	目	208	初	216	坦	64
支	79	石	112	利	50	固	186
文	208	六 畫	27	君	39	奉	118
方	186	亘	46	含	48	宗	98
日	169	仰	144	均	46	定	92
月	53	仲	108	夾	118	尚	64
木	208	任	181	宋	101	居	39
牛	45	伏	45	岑	40	岸	144
王	31	休	66	希	27	忠	92
		光	115	延	148	性	92
		全	8	廷	171	承	186
		印	202	忍	80	抱	174
		名		志		拔	

昇昉明杯東林河沼泓法波知空竺育臥舍表金長阿青	92	持施昭昆洞洪流炬歪省禹約耶若英茂貞迦降飛食香	83	眞破祐祕祝神純素耽能般荆虔馬高	101	深淡淨淮清皎紫紹終脩荷處貫迨通造連陳雪鳥	107
	199		110		172		133
	202		93		215		100
	173		175		176		226
	150		150		90		93
	223		69		102		71
	33		224		90		83
	92		64		117		96
	67		173		133		89
	186		93		171		89
	172		9		174		34
	135		212		52		91
	50		212		53		38
	85		86		172		96
	7		27		70		148
	35		208	十一畫			123
	86		99	乾	53		224
	176		33	參	77		147
	74		70	唯	213		113
	144		175	商	96		145
	5		100	啓	51	十二畫	
	93		69	國	74	傅	178
九畫		十畫		執	85	備	176
亮俊信俞則南咸契威宣室封幽彥待律後思恒拯拾	220	乘修員哲唐辛師徐徑恩恭息悟振桂浩浮海涉涌涅	99	掘	50	勝	96
	90		88	堅	53	善	116
	101		8	孰	90	單	117
	212		144	寂	87	富	181
	123		150	密	202	寒	37
	168		76	崇	109	尊	123
	37		82	常	99	強	46
	51		91	庶	91	復	181
	6		51	康	70	悲	176
	114		31	張	144	惠	10
	85		46	得	163	提	132
	180		123	從	89	普	178
	215		65	悉	85	景	56
	62		102	惟	213	智	136
	124		51	採	76	最	76
	217		70	畫	144	棲	111
	64		178	晤	66	欽	48
	81		35	曹	119	測	123
	67		96	朗	225	湛	134
	100		215	梵	200	無	205
	85		171	潛	82	然	171

琳登皓童等策統苦華虛詞晉賞超跋跛進開雄雲順黃  
 傅圓寤嵩彙意愛慎暉會楚業極楷準溪溫照稠義聖

十三畫

萬解試詩註詵賈遁遂運遍道達廓靖鳩  
 僧嘉圖塵壽夢實寧慈愷鬻榮滿演福甄端精維翠誌誓誠韶賓趙遠

十四畫

馱鳳齊  
 增壽履廣德慧慶橋摩樊滄潞澄澈盤緣蓮誼調賢震  
 學寰戰擇曇曉環虛積窺興融衡謀輸遵遺

十五畫

十六畫

靜頭鳩龍  
 優勵嬰彌徽應檀璨禪聽膺臨薄薦謙謝閤隱韓鴻點  
 彝斷歸璿禮薩藏豐邃鎬雙顏  
 囑懷癡羅

十七畫

十八畫

十九畫

藥	212	寶	196	護	66	瓊	78
證	97	繼	52	辯	183	顯	54
識	84	蘊	32	顯	73	鏡	74
辭	84	覺	36	二十畫		錄	86
贊	77	醴	224	儼	63	二十四畫	
難	169	驚	89	歡	38	讓	100
顯	40	二十一畫		襲	89	靈	220
顯	45	攝	98	鑑	38	二十五畫	
二十畫		灌	38	二十三畫		觀	39
殿	63	蘭	216	巖	40		

ア 阿, 愛, 安

- 阿 備 眞 那 →寶思惟  
 ①義淨傳，於福先寺及雍京西明寺譯金光明最勝王…  
 …經凡二十部北印度沙門——證梵文義 710 b
- ③寶思惟傳，釋——華言寶思惟北印度迦濕密羅國人  
 刹帝利種 720 a
- 阿 足 師 →大圓禪師  
 ⑱阿足師傳，釋——莫詳出處 831 a
- ⑳論曰，或怪物沈河 854 c
- 阿 地 瞿 多 →無極高  
 ㉑無極高傳，釋無極高中印度人梵云——華云無極高  
 也 718 b
- 阿 難 →慶喜  
 (表)臣僧贊寧等言……釋天可則——記事而載言 709 a
- ㉒玄覺傳，絲不以衣耕不以食豈伊莊子大布爲裳自有  
 ——甘露作飯 758 a
- ㉓法明傳，勅批曰……復云化作——更成烏合鬼谷北  
 郭之輩未踐中天舍利文殊之倫妄彰東土 813 c
- 阿 難 律 木 叉 ㉔無極高傳，有中印度大菩提寺——師迦葉師等於經  
 行寺譯功德天法 718 b
- 阿 目 佉 →不空  
 ㉕論曰，金剛智也祕藏祖師——也多經譯匠師資相接  
 感應互彰 725 a
- 阿 目 佉 跋 折 羅 →不空

ア(愛, 安) イ(威, 唯, 惟, 意, 彙)

[僧名篇]

- ①不空傳, 釋不空梵名——華言不空金剛止行二字略也 712 a
- 愛 同 ①義淨傳, 於大薦福寺出浴像功德經等二十部……沙門——思恒證義 710 c
- ⑭愛同傳, 釋——俗姓趙氏本天水人也 796 a
- 安 →道安
- 安 公 →慧安, 道安
- 安 世 高 ⑳全豁傳, 系曰……昔——累累償債去若拂塵業累纒輕苦依身盡換堅固之體耳 857 a
- 安 靜 ⑲安靜傳, 釋——本西域人也 830 a
- ㉔論曰, 或擊銷骨而征 854 c
- 安 禪 師 →慧安, 齊安, 老安, 大安
- イ 威, 唯, 惟, 意, 彙, 滄, 遺, 彝,  
育, 一, 允, 印, 沈, 員, 隱
- 威 秀 ⑳威秀傳, 釋——不知何許人也 812 b
- ㉑論曰, 秀也鍾其厄運憤此反常上踐若攻壘之先登爲法偶犯顏而不死 819 c
- 威 律 師 ⑲朗然傳, 決中自序初依天竺——學習復從遠一二師也 800 a
- 唯 →ユイ
- 惟 →ユイ
- 意 律 師 →滿意
- 彙 征 →光文大師
- ㉓道怱傳, 故僧主——撰塔銘 787 b



- ⑬全付傳, 僧主——爲塔銘建隆二年立 877 c
- ⑬道潛傳, 光文大師——迥然肯重自爲檀越請於山齋  
行三七日普賢懺 878 c
- ⑳永安傳, 遇同郡——大師鳳鳴越嶠玉瑩藍田獲落文  
心沈潛學奧 887 a
- 滄 山 →大滄山, 靈祐
- 遺 則 ⑩遺則傳, 釋——俗氏長孫京兆長安人也 768 b
- 彝 炳 →清慧大師
- ⑦傳章傳, 相國寺清慧大師——爲塔銘焉 751 b
- 育 髮 →慧能
- ㉔子瑀傳, 天寶十二年春將啓靈龕欲焚之容色不變如  
生雖少林孕髭斬春——何獨嘉也 877 a
- 一行(嵩陽寺) →大慧禪師
- ①金剛智傳, 其年自正月不雨迨於五月嶽瀆靈祠禱之  
無應乃詔智結壇祈請……帝使——禪師謹密候之 711 b
- ①金剛智傳, 沙門——欽尙斯教數就諮詢 711 c
- ①金剛智傳, ——自立壇灌頂, 遵受斯法 712 a
- ①金剛智傳, 十八年於大薦福寺又出曼殊室利五字心  
陀羅尼觀自在瑜伽法要各一卷沙門智藏譯語——筆  
受刪綴成文 712 a
- ②善無畏傳, 沙門無行西遊天竺學畢言歸方及北印不  
幸而卒其所獲夾葉悉在京都華嚴寺中良與——禪師  
於彼選得數本並總持妙門先所未譯 715 b
- ②善無畏傳, ——禪師者帝王宗重時賢所歸 715 c
- ⑤一行傳 釋——俗姓張鉅鹿人也 732 c